



オンライン
配信

第47回 2023年度コンペティションの幕開け ピティナ・ピアノコンペティション 課題曲説明会

説明会終了後、3日間ご覧いただけるアーカイブ視聴用動画をお申込み者全員にお送りいたします。

一流ピアニストの演奏で課題曲と出会う

ソロ部門 A2～C級

2023年 **3/1 (水)** 9:50-17:00 (予定)

※A2級課題曲は通し演奏のみ、A1～C級課題曲を解説いたします。
※各スタイルの開始時間は予定。



10:00 ～近現代
赤松林太郎先生



11:45 ～バロック
菅原望先生



14:00 ～ロマン
松本和将先生



15:30 ～クラシック
久元祐子先生

耳と心を育む、アンサンブルのポイントを伝授

デュオ部門 連弾初級・中級

※各級の予選課題曲を中心に説明いたします。

B・C A・B

2023年 **3/2 (木)**
10:00 ～ 13:15 (予定)



ピアノデュオ
ドウオール
(藤井隆史先生 &
白水芳枝先生)



Duo K&R
(川端慶子先生 &
柳瀬亮佑先生)

■オンラインチケット価格

ソロ部門 一般：9,000円/会員：6,000円/eラーニング利用中の会員：3,000円

デュオ部門 一般：4,000円/会員：3,000円/eラーニング利用中の会員：1,500円

※「課題曲説明会」ピティナwebページよりお申し込みください(お支払については、クレジットカードのみ利用可能です)

※聞きたかったためのURLを前日までにお申し込みいただいた際のメールアドレス宛にお送りさせていただきます。

メールの受け取り制限をされている方は[atpiano.or.jp]のドメインからのメールが受け取れるよう、前日までに設定ください。

※通信状況の良い場所での閲覧をお願いいたします。

※後日、3/7(火)よりピティナ・eラーニングでも配信いたします。



申し込みは
こちら

課題曲発表はピティナ・ウェブサイトにて **2023年3月1日(水) 10時** を予定しております。 <https://compe.piano.or.jp/>

◎主催：一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 ※時間、著作権の都合により説明・演奏を調整させていただく場合がございます。

一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ) 〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1 TEL:03-3944-1583 FAX:03-3944-2482 E-mail: event@piano.or.jp HP: <http://www.piano.or.jp>

◆ PTNA PIANO SEMINAR ネットワークの発展をとおし、eラーニング講座が「ピティナ・ピアノセミナー」に展開しております。

■ 赤松林太郎先生 (3月1日ソロ部門近現代)

世界的音楽評論家ヨアヒム・カイザーに「聡明かつ才能がある」(ドイツ国営第2テレビ)と評された2000年のクララ・シューマン国際ピアノコンクール第3位受賞がきっかけとなり、本格的にピアニストとして活動を始める。1978年6分に生まれ、2歳よりピアノとヴァイオリンを、6歳よりチェロを始める。幼少より活動を始め、5歳の時に小曾根美氏や芥川也寸志氏の進行でテレビ出演。10歳の時に自作カデンツァでモーツァルトの協奏曲第21番を演奏。1990年全日本学生音楽コンクールで優勝。神戸大学を卒業後、パリ・エコール・ノルマル音楽院にてピアノ・室内楽共に高等演奏家課程ディプロムを審査員満場一致で取得(室内楽は全審査員満点による)、国際コンクールでの受賞は10以上に及ぶ。

国内各地の主要ホールはもとより、アメリカ、ロシア、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、台湾、コロンビアを公演で回る一方で、近年はハンガリーのダスピア・タレント国際音楽コンクールで審査委員長を兼任し、ヨーロッパ各国で国際コンクールやマスタークラスに度々招かれていく。これまでに新田ユリ、手塚幸紀、堤俊作、西本智実、山下一史、マルク・アンドレーエ、デアーク・アンドラーシュ、ミロスワフ・プワシェチック、タラス・デムチシンの指揮のもと、東京交響楽団やロイヤル・マドリタンオーケストラ、ロイヤル・チェンバーオーケストラ、デュッセルドルフ交響楽団、ドナウ交響楽団、シレジア・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。キングインターナショナルよりアルバムを次々リリースする一方、新聞や雑誌への執筆も多く、エッセイや教則本を多数出版。

現職は大阪音楽大学准教授、洗足学園音楽大学客員教授、宇都宮短期大学客員教授、ブダペスト国際ピアノマスタークラス教授、カシオ計算機株式会社アンバサダー。

■ 菅原望先生 (3月1日ソロ部門バロック)

東京藝術大学、名古屋音楽大学、菊里高校、常盤木学園高等学校各講師、宇都宮短期大学特別講師。

第36回ピティナピアノコンペティション特級グランプリ、ならびに文部科学大臣賞、東京シティフィル賞、王子ホール賞、読売新聞社賞、学生審査員賞を受賞。その他幼少の頃より様々なコンクールで入賞、優勝を果たす。

これまでにゴバスカル・ヴェロ、山田和樹、山下一史、ダグラス・ボストック、岩村力、宮本文昭、西本智実、金井俊文等著名な指揮者と、仙台フィルハーモニー管弦楽団、芸大フィルハーモニア、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、イルミナートフィルハーモニーオーケストラ、ドナウ交響楽団、国立劇場ファイロニオーケストラ等国内外のオーケストラと共演。常盤木学園高等学校、東京藝術大学、同大学院を修了。大学卒業に際し成績優秀者に送られる同声会賞、芸大クラヴィア賞、アカンサス音楽賞を、大学院修了に際し芸大クラヴィア賞、大学院アカンサス賞を受賞。

大学院修了後、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽院に留学。One year Piano Soloist Courseにその年度唯一の合格者として入学。最高評価を得てディプロマ取得。

帰国後すぐに指導を始め、それ以降音楽教育に力を注ぐ。セミナーやマスタークラスを日本全国に渡り開催し、受講生は多くのコンクールで優秀な成績をおさめている。

赤松林太郎、角野裕、カール・マンドラフィ、ジョルジュ・ナードルの各氏に師事。現在は演奏活動にも力を入れており、レパートリーを広げている。

■ 松本和将先生 (3月1日ソロ部門ロマン)

日本音楽コンクール優勝、全賞を受賞。ブゾーニ国際ピアノコンクール第4位、エリザベート王妃国際音楽コンクール第5位入賞。

何度もピアノソナタ全曲演奏会や室内楽全曲演奏会を行ったベートーヴェンやバッハ・モーツァルト・シューベルト・シューマン・ブラームスなどのドイツ物からショパン、リスト、チャイコフスキー、ムソルグスキー、ラフマニノフ、ラヴェル、スクリャーピン、ショスタコーヴィチに至る膨大なレパートリーを持ち、ソロリサイタルからピアノ協奏曲・室内楽・他ジャンルとの共演まであらゆるジャンルをこなすスキルを持ち合わせるとともに、リサイタルシリーズ「松本和将の世界音楽遺産」では1年間一つのコンセプトを掘り下げることによって他の追従を許さない高度に凝縮された音空間を達成している。

これまでにブラハ交響楽団、ブラハフィル、ベルギー国立オーケストラ、読売日響、岡山フィルなど、多くのオーケストラと共演。室内楽にも積極的に取り組み、イザベル・ファウスト、前橋灯子、宮本文昭、大谷康子など多くの名演奏家と共演。上里はな子、向井航とピアノトリオを結成し全国ツアーやオーケストラとの共演を重ねるほか、室内楽に特化した「愛知カンマームジークアカデミー」を創設し室内楽の普及と人材の育成に努める。

これまでに2枚のレコード・芸術特選盤「[展覧会の絵]」「後期ロマン派名曲集」を含む23枚のCDをリリース。

名古屋音大ピアノ演奏家コース客員准教授、東京音楽大学講師として、またなるべく若いうちに音楽の土台を形作らねばならないという信念のもと愛知県立明和高校、浜松学芸高校でも後進の指導にもあたっている。

■ 久元祐子先生 (3月1日ソロ部門クラシック)

東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ブロードウッド(1810年頃製)、ペーゼンドルファー(1829年製)、ブレイエル(1843年製)、エーラル(1868年製)などを所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。2010年ショパン生誕200年記念年には、全国各地でブレイエルを使っている演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下(現上皇と皇后両陛下)ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾りペーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。2012年より度々、イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。これまでCD16作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特選盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン」「テレゼ」「ワルトシュタイン」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。岡田高弘賞、毎日21世紀賞など受賞。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノソナタ」(アルテス・パブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」[ショパンとブレイエル・ピアノ]「リストとペーゼンドルファー・ピアノ」(いずれも学研プラス)など。国立音楽大学・大学院教授、日本ラトビア音楽協会理事、ピティナ評議員。

■ ピアノデュオ ドゥオール (嵐井隆史先生&白水芳枝先生)

～ドゥオール～

2人が解き放つ 光のハーモニー

これまでの850近い演奏活動と並行し、雑誌AERA、NHK Eテレ「天才てれびくんYOU」出演、音友web「ONTOMO」連載、彰の国さいたま芸術、フェニーチェ堺でのワークショップ、YouTube「おうちドゥオール」などコロナ禍もピアノデュオをより身近なものへと前進させるドゥオール。

【嵐井隆史】東京藝術大学大学院修了。文化庁、DAAD奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、国家演奏家課程及びピアノデュオ科最優秀修了。

現在、武蔵野音楽大学講師及び洗足学園音楽大学大学院招聘講師。

【白水芳枝】東京藝術大学卒業。野村文化財団、DAAD奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、国家演奏家課程(ソロ)及びピアノデュオ科最優秀修了。

現在、国立音楽大学講師及び洗足学園音楽大学大学院招聘講師。

'04年デュオ結成後、国際的な賞を数多く受賞。以後の活動は聴衆や音楽誌から高い評価を受けている(リリースした多くのCDがレコード芸術誌特選盤選出、'18レコードアカデミー賞ノミネート)。近年ドイツツアー、シンガポールでのマスタークラス&リサイタル、アメリカ・マイアミPiano Slam13アーティストとしてプロジェクト参加など海外での活動も展開中。'23年夏、シンガポールにてリサイタル予定。

'21年には8枚目CD「Duo Energy」をリリースし、東京、名古屋、大阪、岡山での記念リサイタルを大好評のうちに終えた。

■ Duo K&R (川端慶子先生&柳瀬亮佑先生)

国立音楽大学在学中の2010年に結成されたピアノデュオ。シュトゥットガルト音楽大学大学院室内楽科、ロストック音楽大学ドイツ国家演奏家資格課程ピアノデュオ科を最優秀の成績で修了。これまでに、金子恵氏、ハンス・ペーター・&フォルカー・シュテンツル氏に師事。

ピティナ・ピアノコンペティション進級上級金賞、読売新聞社賞、シューベルト国際ピアノデュオコンクール(チェコ)審査員特別賞、ローマ国際音楽コンクール(イタリア)2位、ピアノデュオ国際コンクール(ポーランド)ポーランド作品賞、4手のためのモナコ国際コンクール2位、聴衆賞をはじめ、国内外のコンクールで優れた成績を収める。

パイロイト、メクレンブルク・フォアポンメルンなどのヨーロッパ各地の音楽祭に出演。また、2017年に新設されたウルト・フィルハーモニー管弦楽団のオープニングコンサートのソリストに選出され、マキシム・ヴェンゲーロフ指揮で共演。その演奏はSWR(南西ドイツ放送)にて高く評された。

2017年、ブルーノ・フライ財団より、優秀な若手音楽家に贈られる「ブルーノ・フライ音楽賞」を受賞。2020年には、国立音楽大学同窓会より、顕著な功績を挙げた卒業生を表彰する「くにたち賞」を受賞。

※当ページは予定です。詳細は別ページをご確認ください。